

マンション 往来便利に

2020年の東京五輪の選手村ができる東京臨海部で大型マンションの建設計画が動き出した。マンションと駅を結ぶ地下道を造ったり、マンションから都心へ送迎バスを走らせたりと、駅周辺の混雑や交通インフラの脆弱さといった問題を解消する工夫を取り入れているのが特徴だ。臨海部の弱点を補う再開発を通じて、大会後も発展する街づくりを目指す。



選手村の臨海部、建設進む

野村不
三井不
住友不
都心へ送迎バス
地下鉄駅に直結



今秋、晴海に完成した住友不動産のマンション（東京都中央区）

野村不動産や三井不動産は都営地下鉄勝どき駅に直結した高層マンションを建設する。このほど再開発の準備組合を設立し、16年度をめどに建物の規模などを決める。敷地面積は約1・4畝で、現在は銀行などの店舗やホテル、マンションが密集している。三井不動産などが朝潮運河沿いで計画する大型開発では、約3・7畝の敷地に4棟の建物を建設する。住居やオフィスとして使用し、最も高い建物は地上58階建てになる。17年秋に着工し、27年の完成を予定する。地域貢献の一環で、勝どき駅の新たな出入り口

集している。着工は20年前後になる見込みだ。12年度に地元の中央区が街づくりに関する検討を始めた。周辺では晴海のオフィスビルに向かう

も整備し、地下連絡通路とつながる。晴海とつながる橋も整備して、移動しやすいようにする。周辺道路も拡張して歩行スペースを十分に確保する。住友不動産は選手村ができる晴海地区に、大型マンション「ドウ・トゥール キャンナル&スパ」を今秋に完成させた。敷地面積は約1・5畝で、地上52階建ての超高層マンション2棟に1450戸が入る。16年春から入居が始まる。

20年五輪でメイン会場

となる新国立競技場のあごを利用して、新橋駅まで往復する住民向け送迎バスを終日運行する。晴海では16年夏に三菱地所の超高層マンションも完成予定で、今後大手不動産会社による再開発計画が相次ぐ予定だ。